



「生誕100年 松沢宥」展 きょうから長野で

コンセプチュアル・アート（概念芸術）で国内外に知られた諏訪郡下諏訪町生まれの芸術家、松沢宥（ゆたか）さん（1922～2006年）の歩みを紹介する「生誕100年 松沢宥」展が2日、長野市の県立美術館で始まる。1日、報道向け内覧会で作品、資料約300点が公開された＝写真。

松沢さんは詩、絵画、オブジェ、パフォーマンスなど時代ごとに表現を模索した。「九想の室」は、正方形の真っ白な紙9枚を床に置き、「この白き紙を火と観ぜよ」などと“指令”を添える。おびただしい作品が壁を埋める自宅2階のアトリエも再現した。

下諏訪町でも展示などの「生誕100年祭」が開催中。姉妹で会場を訪れた松沢さんの次女、中村洋子さん＝東京＝は「各地で展覧会を開いていただきありがたい」と話した。3月21日まで。2月2日、23日以外の毎週水曜と24日は休館。一般800円。高校生以下無料。